

世界遺産センターとルサフィールドハウスの運営状況について

< 知床世界遺産センター >

1. 知床世界遺産センターの役割・設置目的

知床世界遺産センターは、実物大の動物写真などを中心とした大型写真パネル展示やハンズオン展示、ハイビジョンレクチャー映像、フロアレクチャー等を通して、知床の自然や知床世界自然遺産の素晴らしさと共に、知床を利用するにあたって守るべきルールやマナーを伝えるための施設である。

遺産地域の斜里町側の玄関口であるウトロにあり、遺産地域に入る前に利用者の皆様に知床のことを知ってもらうことで、適正な利用を進めることを目的としている。

2. 知床世界遺産センターの概要

知床世界遺産センターは、2009年4月19日に開館。敷地面積 2,800 m²、建物面積 758 m²の木造平屋建てで、大型写真パネルや痕跡模型を配した展示室、映像展示等を行うレクチャールーム、最新情報を発信するインフォメーションコーナー、知床に関する書籍を読むことができる休憩コーナーなどを有している。

環境省の施設であるが、北海道、斜里町の協力により活用されており、委託先も含め様々な機関のスタッフが関わっている。

利用者は5月23日に1万人を超え、1月末で71,200人に達し、家族連れや修学旅行、バスツアー参加者など多岐にわたる。

また、知床世界遺産センターホームページにおいては、旬の自然情報や各施設の情報を発信している。

3. 今後の予定

知床に来られたより多くの人に利用してもらえるように、看板整備や広報を進めると共に、窓側の展示スペースを利用して施設の外からでも目を引く展示を実施する。

また、パネルを読んでもらえるような工夫や、フロアレクチャーでより多くの人にメッセージを直接伝えるなど、レクチャー機能を充実させていくことを検討している。



< 知床世界遺産ルサフィールドハウス >

1. 知床世界遺産ルサフィールドハウスの役割・設置目的

知床世界遺産ルサフィールドハウスは、知床半島先端部地区を利用しようとする方々に対してルールやマナーのレクチャーを行うとともに最新情報を提供し、先端部地区での事故防止と環境の保全を図ることを目的とした施設である。

また併せて、先端部の自然の素晴らしさ、知床の海と陸の生態系のつながり、人々の生活と海とのつながりなどを通じ、世界自然遺産である知床の価値を広くお伝えすることを目的としている。

2. 知床世界遺産ルサフィールドハウスの概要

知床世界遺産ルサフィールドハウスは、2009年6月6日に開館。敷地面積 1,497 m²、建物面積 257 m²の木造一部二階建てで、知床半島先端部地区の概況や注意事項を紹介するパネルやモニター、漁業やアイヌ文化などを紹介するパネルのほか、双眼鏡などを備え付けており、眼前の根室海峡に時折見られるクジラ等を観察することもできる施設である。

開館期間は2月から10月の9ヶ月間である。環境省の施設であるが、北海道、羅臼町の協力により活用されている。利用者は、10月末の閉館時点で7,484人である。

3. 今後の予定

先端部地区利用者が事前に必ずルサフィールドハウスに立ち寄っていただけるようなPRや仕組み作りを行うことにより、先端部地区利用者のレクチャー受講率向上を図ってまいりたい。また、質の高いレクチャーを提供するため、先端部地区に関する最新情報を積極的に収集するとともに、レクチャー用資料を充実し、さらにレクチャーに関する指針(最低限何を伝えるべきか)の作成を検討する。

その他、平成21年度は施設周辺において、ヒグマとの軋轢を生みかねない不適切な行動(釣り人、カメラマンなど)が見られたため、これらの防止に努める。

